研究主題：主体的、対話的で深い学びの実現を目指して（２年次）

# ～TANKYU～

谷地南部小学校
校内研究だより
２０２３．２．１０
№５９　文責　伊藤

# 個別最適な学びとは②

前回出したものの続きです。私が担当していることが、どちらで出したらいいものか自分でもわからなくなる時があるので、TANKYU と KENSYU のどちらからも出すことになると思います。内容によって分けているつもりではありますが、あちこち行きます。すみません。

「個別最適な学び」という言葉を最近よく耳にしますが、どういうことなのでしょう。簡単に言えば、「一人一人に合った学び」ですね。今回は、その先のことについて、前回紹介した職員図書を読んで学んだことを、少しまとめて書いていきます。

まず、「個別最適な学び」には２つの側面があります。文部科学省でも明示しているようですが、**「指導の個別化」**と**「学習の個性化」**です。

| | |
|---|---|
| 「指導の個別化」 | 単線的なカリキュラムの線上において、出発地点やゴール地点、歩き方やペースをそれぞれに合わせる（任せる）こと。<br>→本校で取り組んでいる「単元内自由進度学習」のイメージ |
| 「学習の個性化」 | それぞれの興味関心や目標に応じて、複線的にカリキュラムを構成していくこと。<br>→本校で言えば「SUW」「家庭学習」のイメージ |

上記にあるような意味の違いはありますが、当然どちらも明確に区切れるものではありませんし、２つを両輪として学びの環境を拓いていくことが個別最適な学びには大切です。このことをできる範囲で取り組んでいくことが、子ども達の well-being に繋がっていくわけです。

上記の２つの中で、筆者が特に大切にしたいと言っているのが**「学習の個性化」**です。しかし、学校で指導する上での拠り所として「学習指導要領」があります。十人十色の子ども達の興味関心に合わせてカリキュラムを構成なんて出来るはずは・・・。確かに学習指導要領は指導のベースとして必要ですし、教科書も主たる教材として使わなければいけないことになっていますが、絶対にその通りである必要は全くありません。文面を見ていると、「地域の特色」「～に応じて」など、柔軟性に富んでいて現場の裁量が大きいことが分かります。一人一人の学び方をカスタムするのに役立つ、それが ICT なんです！

たくさんの種を蒔き（＝様々な学び方を紹介・やらせてみる）、多様な学びを容認してあげることが、子ども達の学習の個性化を進めていく上で私たちに出来ることだと思います。決めるのも、やるのも子どもたち自身です。指導者がやるべきことは、子どもをよく見取り、価値づけたり励ましたりして、子ども達の学習に寄り添うことなのだと思います